

## 尾ノ上の風

第14号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

## 校区のお年寄りに学ぼう

## 「昔の遊び大会・ふれあい給食会」

11月20日に老人会の皆様に来ていただいて昔の遊び大会とふれあい給食を行いました。昔の遊びでは、けん玉やお手玉、竹馬などの遊びを手を取って教えていただきました。

11月の秋晴れのもと、運動場と体育館に、1年生の子どもたちのうれしそうなお声が響いておりました。その後、教室に上がって2年生と給食を召し上がっていただきました。2年生の子どもたちは、昨年昔の遊びで関わっているので久しぶりに会うことを楽しみに準備をして、うれしそう給食を食べておりました。老人会からは50人近くの皆様が駆けつけてくださり、大変有意義な時間をもつことができました。



竹馬の練習をする1年生（上）  
と一緒に給食を楽しむ2年生（下）

## 授業参観・懇談会お世話になりました

先週の4日（水）に2学期最後の授業参観を行いました。今回は「親子道徳の日」として全学級で授業を参観していただきました。

翌日の朝、正門で保護者の方とお話したところ、「（低学年の）子どもたちの反応が面白かったです」「（高学年の）子どもたちの発表を聞いて感動しました」という声を聞くことができました。自分事として課題を考え、友達との対話を通して深く考える道徳の授業になるように、担任は学年の職員と日々情報交換をしながら取り組んでいるところです。

懇談会では、人権週間の取り組みや授業、生活の様子をできるだけわかるようにお伝えできたでしょうか。感想、意見などを担任までお伝えいただけるとありがたいです。

こんにちは！お仕事&授業拝見21 算数少人数指導 今井先生編

○今井先生の算数の授業を参観した感想は、

- ① 表情に笑顔とゆとりがあり、無駄な言葉がなく、すっきりした導入と子どもの活動がふんだんにあること。
- ② 子どもに黒板を開放、発表させて力をつける場が多い。
- ③ 算数活動の時間がたっぷりある。しかもノート指導も継続的であり、学びの足跡が残っている。
- ④ 数え棒などを使ったアナログ的な活動と電子黒板を組み合わせた使い方がうまい。 ということです。

授業のはじめに、いきなり前の時間に学習した1問をミニホワイトボードに書くと、さっと子どもたちが取り組みます。黒板に数え棒のイラスト図と筆算を組み合わせた図を用意され、数分後、子どもに数え棒のイラストを動かさせながら、上の位から繰り下がる操作を説明させて筆算の仕方を復習。ここまでぴったり5分でした。

この時間の課題では、子どもが数え棒のイラストを使って繰り下がることを発表し、先生はその子どもの発表を3行に簡潔にまとめられました。この板書をみれば、この時間に子どもたちがどのように計算の説明の言葉をノートに書けば良いかの参考になるように書かれています。また、上の位から繰り下がることを「両替せんといかんね」という言葉を使って説明され、3年生の子どもにイメージしやすい言葉でおさえられていました。授業では、発表した子どものやり方をとてもほめて価値づけをされ、その後の練習問題で、「これは〇〇さん方式かな？先生方式かな？」と聞くことでやり方の違いをきちんと意識できているかを確認されていました。

子どもたちがノートに書く間、先生は子どもたちの机の間を頻繁に回り、計算が終わり確かめ算をして間違いに気づいた子どもを見つけては褒めていました。早く計算できた子は、文や図を使って説明ができるよう書かせ、空白の時間を作らないようにすること、ノートに定規を使いながら計算をするノート指導など毎日の継続した指導を大切にされた授業でした。



子どもたちの間を回って様子を把握する今井先生



## 今井 知子（いまい ともこ）先生 尾ノ上小5年目

【今井先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

もともとスポーツが大好きで、子どもといっしょにスポーツなど運動を楽しめたらいいなあと思っていたので小学校の先生になろうと思いました。先生になってからは、運動会での表現や子どもたちとつくりあげる音楽も好きになりました。

## こんにちは！お仕事&授業拝見22 4年1組算数 松田先生編

○松田先生の算数の授業を参観して、

①昨年より一段と進化したICTの活用 ②シンプルでわかりやすい板書 ③子どものつまづきを学級全体で学ぶ指導が印象に残りました。

人口を漢数字に直す問題を出すと、子どもたちは慣れた手つきでiPadに解答を書いて先生に送っていました。先生はそのデータの一つ一つ注意深く見てチェックしていきます。誤答を取り上げるのですが、取り上げられた子どもが自信を無くすどころか、次に頑張ろうと思えるような雰囲気が進められていました。この後、先生は「いくつずつ区切って読むと良かったかな」と問いかけられて確認し、今度は黒板に位取り表を貼られました。電子黒板などのICTは消えてしまうので、きちんと黒板に残すものと映像で消えていくものを意識されていたのは、昨年もICTを日常的に使っていた松田先生ならではの工夫だと思います。

この後も少しずつ問題のレベルを上げながら、同じように子どもたちのケアレスミスなどを取り上げて子どもたちに意識付けをさせられたのでこの1時間だけで随分とミスが減りました。変化のある繰り返して少しずつレベルがあがるので飽きが来なかったと思います。

習熟を図るワークシートも学習の流れが同じだったので混乱なくすらすらと書いて提出していました。二人の子どもの解答を紹介されましたが子どもたちはかなり理解ができているように見えました。習熟を徹底しながら進められましたが、やらされ感がありませんでした。私の横に座っていた女の子は、「データをもらったり送ったり、ペンで書き込んだりするので算数が楽しい」と教えてくれました。子どもたちの集中力が高まる授業でした。



子どもたちといっしょに  
気づきを出し合う場面



### 松田 史哉 (まつだ ふみや)先生 尾ノ上小6年目

【松田先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

高校の書道部の先生の影響で教員になりたいと思っていました。大学4年生の時、中学校の教育実習を経験して教職のおもしろさを味わいました。そのあと、なるなら小学校の先生にぜひなりたいたいと思って小学校の免許を取りました。

## こんにちは！お仕事&授業拝見23 6年4組国語 西上先生

○西上先生の授業を参観しました。授業は、

- ① 余計なことは言わず、教師の発する言葉がすごく少ないこと。
- ② 自分の考えを書けるようになるためのステップ化を準備したこと。
- ③ 発表交流にiPadを取り入れたこと で落ち着いた雰囲気でした。

この時間では、前の時間までに読んだ国語教材文の4つの「投書」のうち、一番よいと思うものを選ばせてその理由をワークシートに書かせました。それをもとに、iPadに選んだ番号と理由を書かせて提出させました。いきなり、iPadに書くとまとまりのない長い解答になりがちです。アナログでワークシートに書かせてから、iPadに書くというステップは、子どもたちが思考してから書くことを絞ることができる方法でなるほどと思いました。子どもたちが送ったデータが電子黒板の画面に示され、次第の一つ一つ埋まっていくと、子どもたちの集中力も次第に増していくように見えました。お互いの進行状態が視覚化されてみんなに分かることは、緊張感を持つことができ6年でも十分に効果があるなと思いました。

この後、子どもの解答を電子黒板で示しながら子どもが発言していきました。その内容を聞いていると、4つの教材文の分析ができており、私の想像以上に理由がしっかりと書けていて大変驚きました。電子黒板の画面を見ながら、先生は子どもを指名して発表させられていましたが、座ったままで発表が出来るので人前で話すことが緊張する子ども、立って発言するのが苦手な子には良かった形態だと思いました。



タブレット (iPad) に入力  
する前に鉛筆で自分の考  
えを書き出す6年生



### 西上 大介 (にしがみ だいすけ)先生 尾ノ上小2年目

【西上先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

父親が教師をしていたのですが、子どものころは父親の仕事を見てなりたいたいと思っていたわけではないのです。それでも大学の教育学部に進み、大学時代にやりがいのある仕事だなと思う体験があり、教師になりたいと思いました。